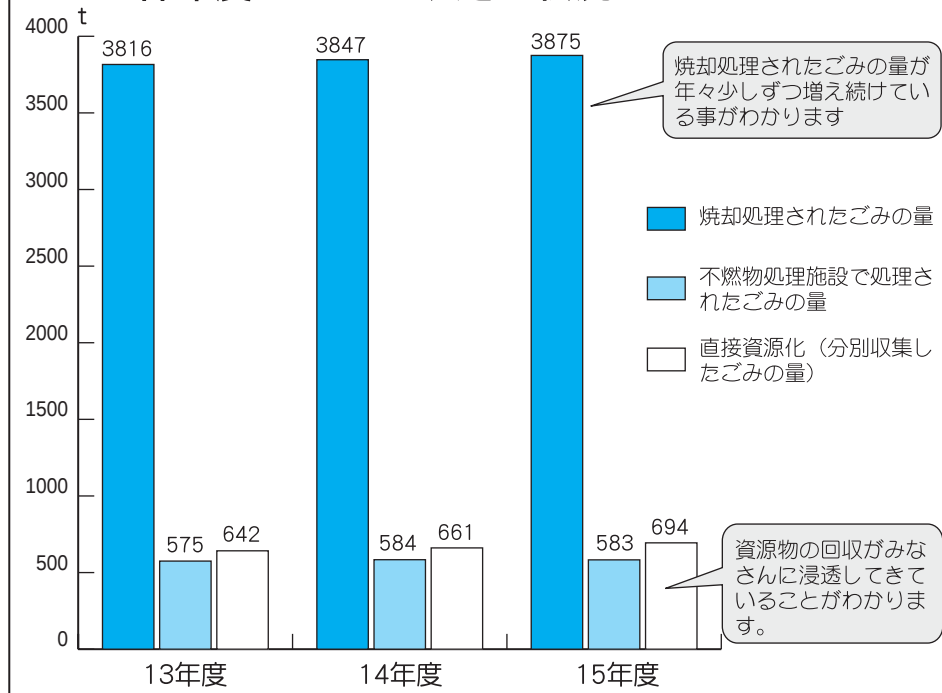


各年度ごとのごみ処理状況

別表 1



減や環境を配慮してなるべく有機肥料として自家処理していただくことをお勧めします。

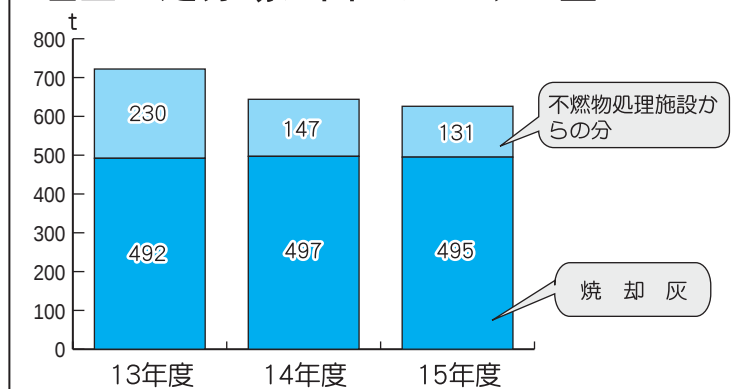
可燃ごみの中に、不燃ごみ（カン類）を混入したことはありませんか？

そのまま焼却されると、不燃ごみをリサイクルすることができず埋立て処理場に回ります。（これ

は不燃ごみと灰を分別することが困難なためです。）

いずれにしても埋立地は限りがあるため、灰の再処理施設を南諏衛生センターの旧焼却場跡地に建設する計画があります。この施設は焼却灰を溶融処理でスラグにし、道路の路盤材やコンクリート骨材として再利用しようとするものです。

埋立て処分場に回ったごみの量 別表 2



再利用するには不燃ごみを混入しないことが重要になります。なるべくお金をかけないで処理するために再認識する必要があります。

② 燃えないごみ：不燃コンテナに入れるもの（缶・ガラス類、陶磁器類、金属類（小物））

③ 粗大ゴミ：粗大（木製家具、ふとん、じゅうたんなど）

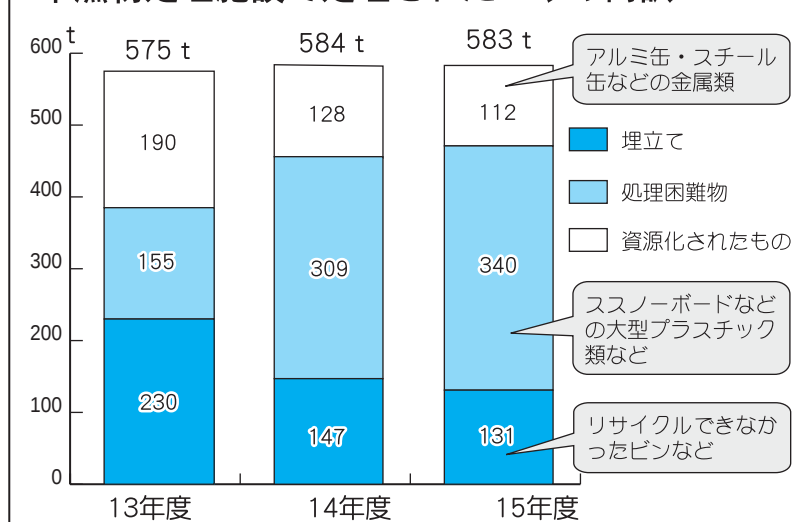
不燃粗大（ガスレンジ、自転車、掃除機、スノーボードなど）この燃えないごみ、粗大ごみは

南諏衛生センターの不燃物処理施設で資源化されるもの（アルミ缶・スチール缶などの金属類）と処理困難物（スノーボード・スキーなどの大型プラスチック類や鉄骨類など）と埋立てにまわるもの（ガラス片・陶磁器類など）に分別され、なるべく埋立て処分場へ回らないよう細分化し、買い取ってもらう物とお金をかけて処分する物とに分けています。

皆さんは、不燃コンテナに入れるものをご存知ですか？

基本的には缶・ガラス類、陶磁器類、金属類（小物）ですが、食べ物や飲み物の入ったビンなどを白いビニール袋に入れたまま出していただく方がいます。燃えないごみは必ず袋等から出してコンテナに入れてください。特に有害物（農薬など）や中身の入っている容器は絶対に出さないでください。コンテナ内や処理場で漏れ出す場合があります。必ず中身を抜いてから出しましょう。農薬などは販売店に相談し、適切な処理を行ってください。

不燃物処理施設で処理されたごみの内訳 別表 3



※不燃物処理施設で処理されるごみの中で最も多いものは、処理困難物です。特に多いのがスノーボード・スキーなどの大型プラスチック類です。金属類は業者に買い取ってもらっています。